

尾崎城だより

No.68
2025/4/1



「春」(アイリス)
いそはた みか

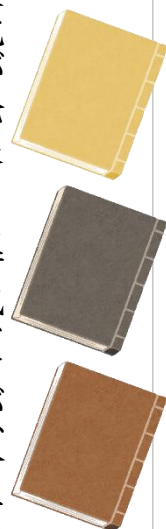
館長のおはなし

江戸時代は様々な日本の文化が発展した時代ですが、今年は大河ドラマの影響で「出版」に注目される年かと思います。

本屋が日本で登場するようになるのは江戸時代初期のこと。現在では本を作る出版社と本を売る書店と別れていますが、江戸時代の頃は「作る」と「売る」両方を本屋が行っていました(売るだけの店もありました)。名古屋では17世紀の終わりごろから徐々に本屋が増え始めたようで、それだけ名古屋でも本の需要が高まった、つまり一般の人々も本を読むようになったということになります。

それでは名古屋城下から離れた日進市域での「本」への関わり方はどうだったか。残念ながらほとんど記録が残っておらず、現状不明です。数少ない記録の中では藤島村の龍谷寺が本屋から本を購入した記録が残っています。正確な年代は不明ですが江戸時代後期頃、龍谷寺は藤屋傳兵衛(名古屋本町の本屋)より『報恩編』『梅花指南』『甲陽軍鑑』の3冊を購入しています。龍谷寺は藤屋傳兵衛をよく利用していたのか藤屋傳兵衛から年末の挨拶が届けられた記録も残ります(『日進町誌資料編8』)。

寺社の人々や庄屋は村の知識人でもあるため、本を普段から読んでいたと思われる。日進市域に残る記録ではほとんどが「物之本」と呼ばれた専門書で娯楽要素が強い大衆本の記録はほぼありません。日進の人々が娯楽としてどのような本を読んでいたのか気になるところです。





イベント情報



日進市菊花大会 菊作り講習会

第1回:5月24日(土)
時間:10:00~
場所:岩崎城歴史記念館横

初心者の方でも大会実行委員が丁寧にお教えます。第1回は菊の苗をポットから鉢へと植え替えます。第2回、第3回と菊の植え替えを行い、立派な大菊を育て上げるお手伝いをします。



甲冑着用体験会

4月29日(火)5月4日(日)
5月5日(月・祝)
10:00~15:00
申込不要。直接岩崎城へ。

手作り甲冑の着用体験会を行います！本物そっくりな甲冑で、軽く簡単に着ることができます！端午の節句に岩崎城で武将気分を味わいませんか？



岩崎城検定

申込:4月20日(日)
~5月11日(日)

初級
5月24日(土)10:00~11:00
5月25日(日)10:00~11:00
中級
5月24日(土)14:00~15:00
上級
5月25日(日)14:00~15:00

岩崎城の戦い、丹羽家の歴史、岩崎城の遺構など、幅広い範囲から出題します。合格者には岩崎城オリジナルの合格認定証を贈呈！

「アートセッション in 岩崎城」

会場:岩崎城
5月31日(土)~6月8日(日)

国内外で活躍する作家による、様々なジャンルのアートセッション。城とアートのコラボが生み出す新たな魅力を、ぜひ岩崎城で体感しませんか？アートセッションコンクールも開催！テーマは「道」と「100」。詳しくはHPへ。



「岩崎城だより」

発行日 2025年4月1日(年4回発行)
編集・発行 岩崎城歴史記念館

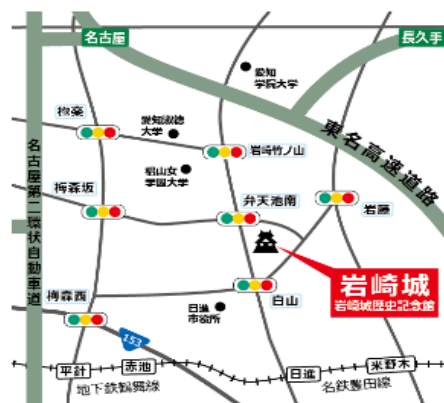
〒470-0131
日進市岩崎町市場 67 番地
Tel 0561-73-8825
Fax 0561-74-0046
<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo>



岩崎城 HP

◆開館時間
9:00~17:00

◆休館日
月曜日
(祝日の場合は開館)
12月28日~1月4日



愛城投票岩崎城第1位！



3月1日(土)2日(日)に吹上ホールにて開催された、愛知県最大のお城イベント「にっぽん城まつり2025」。イベント前から始まっていたお城投票、あなたの「愛城」と、その魅力を教えてください！教えて！「愛城」投票にてなんと！！**岩崎城が第1位**となりました。

愛知県は三英傑の故郷であり、他にも有名で大きなお城がたくさんある中、地域の皆様、関係者の皆様のおかげで、1位を獲得することができました。いつも応援していただき、ありがとうございます。これからも岩崎城をどうぞよろしくお願いいたします！

2024 年度冬企画展(2024.12.7~2025.1.13)

「にっしんと観光～名所へご案内します」にて募集
「オススメの場所教えてください！」報告

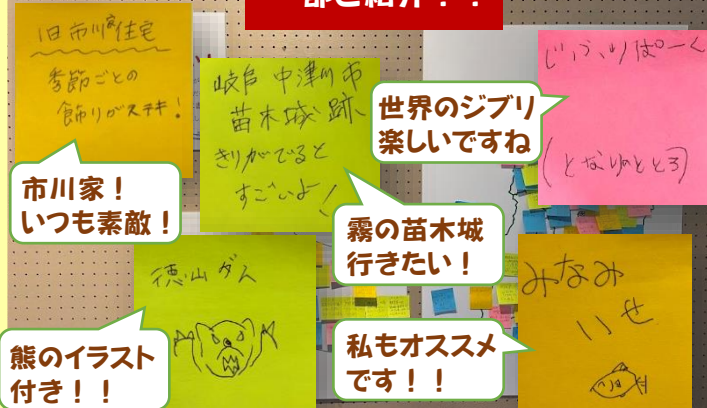
付箋の枚数は **118 枚**

(日進 45 愛知 34 岐阜 21 三重 15 その他 3)

企画者も知らない素敵な場所がたくさんあり、日進市や東海三県の素敵な場所を再発見できました！

ありがとうございました！

一部ご紹介！！



国登録有形文化財 旧市川家住宅

一般公開 **10 周年**を迎えます！

江戸時代の庄屋の格式を伝える大型民家。独特な「四つ建て(鳥居建て)」形式を有す、貴重な事例として、国登録有形文化財に登録されています。平成 27(2015)年 6 月に一般公開され、現在も季節の飾りや様々なワークショップを楽しむことができます。



こんみかちゃんとこんいちくん

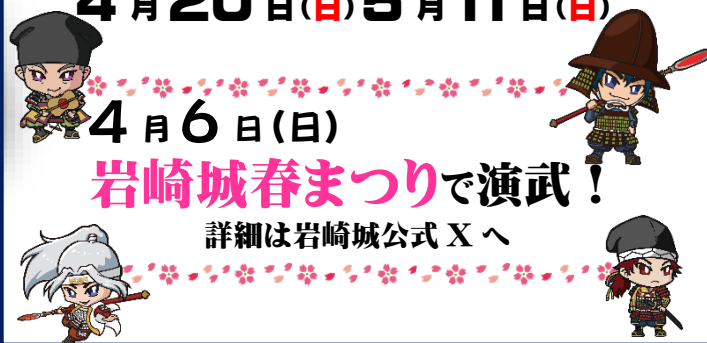
←旧市川家住宅 HP



岩崎城刀劇隊の 新ポスター が完成しました！



剣術道場 今後のスケジュール
4月20日(日) 5月11日(日)



4月6日(日)

岩崎城春まつりで演武！

詳細は岩崎城公式 X へ

岩崎の民話



青山ぎつねがこどもをさらいつ

子供が泣くと「あおやまぎつねがくるぞ」と言っていて、大人は子どもをだまらせようとした。春の野に麦がのびて、見渡すばかりの麦畑になるころ、あおやまぎつねが出てこどもをさらっていく季節である。このあたりは稲作のあと、乾田は晩秋になると田おこしをして高畔に積んで麦作をする。耕地のうち水田以外は茫々たる麦の青が続いて青田になる。

幼児や子どもなどは田の仕事に連れられて行つて遊ぶ。遊んでいるうちに、親のいる場所からどんどん離れて行ってしまうことがある。親が気づいて、子どもがいない、と騒ぎになる。子どもは麦畑の中で迷子になってしまう。そんなとき、「あおやまぎつねにさらわれた」といつて心配したものだ。「あおやまぎつねが来て連れていかれるからおとなしくせよ」と言われると、子どもには、恐ろしいことで、かなりのききめがあった。

もともと日進での麦づくりは、乾田に米の裏作として作る二毛作と畑で作る、2通りがありました。二毛作の場合、麦を収穫した後で田起こしをしてから田植えとなります。刈跡が硬い小麦だと田起こしの際に足に刺さるため、より柔らかい大麦を植えることが多かったそうです。

現在も日進ではお米や麦、野菜などを中心とした農業が営まれています。

収蔵品紹介

◆ 槍 ◆ 全長 18 cm

「国光」と銘があるこの槍は、全長18 cm、素槍(直線的な細身の穂)で両鑄(鑄(し)のぎ)とは、刀身の側面にある山高くなっている筋のことです。槍が戦いにおいて一番活躍した時代は、戦法が個人から集団での戦いに変化した安土桃山時代のことです。江戸時代には「槍術」呼ばれる武術が普及し、全国各地に流派が生まれました。

「国光」と銘を入れる職人で有名な人物が二人います。一人は鎌倉時代、南北朝時代にかけて山城国で活躍した「来国光」、もう一人は相州伝の祖といわれ、鎌倉時代後期に相模国で活躍した「新藤五国光」です。この二人が制作した多くの刀が国宝や重要文化財に指定されています。岩崎城収蔵の槍の由来は不明ですが、有名な二人が作者ではないと思われる「国光」と銘がある刀剣や槍は多く存在します。



国光